

・第6号議案：昭和57・58年度会長・副会長・支部長選任の件及び

・第7号議案：昭和57・58年度理事・監事選任報告の件  
先ず高橋会長から第1回評議員会において昭和57・58年度理事・監事について資料のとおり選任された旨報告が行われ、異議なく了承され、続いて同じく第1回評議員会において推薦された、昭57・58年度会長・副会長・支部長（案）について賛否を諮ったところ、全員異議なく原案どおり選任された。

ここで、高橋新会長の挨拶が行われた。

・第8号議案：名誉会員推薦の件  
高橋議長より去る4月16日開催の第11回理事会及び第3回評議員会の承認により、次の5会員の名誉会員推薦を諮ったところ、満場一致で推薦された。

名誉会員 森崎 延一  
" 柘植 盛男  
" 小島 吉郎  
" 稲川 達  
" 荒川 一郎

高橋会長より各名誉会員に記念品が贈呈され、代表して森崎名誉会員から挨拶が行われた。

#### 4. 第32回自動車技術会賞授賞式

5月20日（水）15:00～15:25 東条会館 ホール  
授賞式は高橋会長の挨拶に引続き中塚総務担当理事から選考経過報告が行われた後、5名の受賞者に対しそれぞれ賞状及びメダルが授与された。

##### 《浅原賞学術奨励賞》

(1) エンジン運転中のクランク軸及び主軸受部の運動解析  
（受賞者） 林 義正君 日産自動車（株）  
（受賞の理由）「エンジン運転中のクランク軸挙動及びエンジン振動の実験解析」と題する論文において、エンジン運転中のクランク軸挙動及び主軸受部とシリンダブロックスカート部の振動応答を総合的に解析し、燃焼騒音の発生機構の解明を行つている。

この研究に際し、実機運転中のエンジンに周到巧妙な計装をほどこすことにより、エンジン振動の発生と伝達、あるいは各部の変形の測定を行い、併せてその結果の詳細な解析によりエンジンの高周波騒音発生を主要因を明らかにしているが、これはエンジン騒音の低下に関する技術の進展に大きく寄与するものであり、且つ、将来に亘つても大きな貢献を期待できるものである。



名誉会員

(2) グロープラグの急速加熱制御システム（QCS）の開発  
（受賞者） 河村 英男君 いすゞ自動車

（受賞の理由）「ディーゼルエンジンの始動性とグロープラグの急速加熱制御について」と題する論文において、ディーゼルエンジンの始動性の推定、グロープラグの始動補助効果を調査し、グロープラグの予熱時間の短縮の手法を開発し、始動性の改良を達成している。

この研究に際し、数多くの実験の積み重ねと理論的解析の結果を踏まえ、これにメカトロニクス及びセラミックスの分野における最新の技術を独創的に組み合わせることによって、ディーゼルエンジンの瞬時始動システムを開発し、ディーゼル自動車の操作性を顕著に改善して、自動車技術の進展に大きな寄与を行った。

また、解析力・実行力にあわせてその豊かな創造力は、将来に亘つても大きな貢献を期待させるものがある。

##### 《浅原賞技術功労賞》

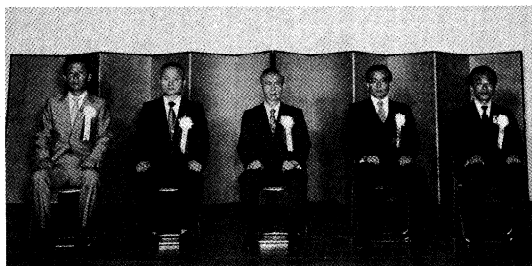
標準化を通じた自動車技術の進歩向上に対する永年の功績  
（受賞者） 中込 常雄君 いすゞ自動車  
（受賞の理由） JASO（自動車規格）、JIS（日本工業規格）及びISO（国際規格）の自動車関連規格は、自動車技術の基礎を構成し、生産性の向上、品質の確保に必須のものとなっているが、これらの自動車関連規格に関する知見において、わが国の第一人者であり、自動車技術会における規格関係各委員会において30年間に亘り常に標準化の普及、推進役となっている。更に近時、国際的標準化活動の重要性が増大しているが、日本の代表者としても活躍し、国内外の標準化の交流に効果を挙げている。

以上のように、永年わたる標準化活動の自動車技術の進歩向上に寄与してきたところは極めて大きい。

##### 《中川賞》

(1) 自動車用ロータリ・エンジンの研究開発  
（受賞者） 大関 博君 東洋工業  
（受賞の理由） ロータリ・エンジンの排気ガス規制への適応と低燃費化は、極めて高度の技術的対応を要するものであり、また、その実現が強く望まれていたものである。  
わが国のロータリ・エンジンの開発の初期から、その研究開発に携わり、ロータリ・エンジンの要めとも言うべきアパックスシールの開発に大きな成果をあげるほか、種々の新技術、新機構を開発し、ロータリ・エンジンの実用化を進めてきている。

特に、ロータリ・エンジンに極めて困難と言われた触媒コンバータを実用に供し、排気ガス規制に適応させるとともに、新しい考え方の吸気系を導入・採用し、幅広い回転域にわた



自動車技術会賞受賞者

る最適燃焼により、ロータリ・エンジンの低燃費化を実現させたことは、長年にわたる技術の蓄積により可能となつたものであり、自動車技術の進歩・発展への貢献は誠に大である。

(2) 電気式燃料噴射時期制御装置付ターボ過給ディーゼルエンジンの開発

(受賞者) 岡田 信近君 日野自動車工業

(授賞の理由) 大型トラックの燃費低減は、いかなる時代においても重要な技術開発課題としてとり上げられ、進歩を続けてきており、わが国の大型トラックは国際的にも高い水準を維持してきた所である。

さらにこれを大幅に低減するため、小排気量、高過給のディーゼルエンジンに着目し、研究開発をすすめ、熱効率を大幅に向上させることに成功している。

すなわち、ターボチャージャーと組合せた慣性過給の長所を活かし、短所を補うことにより、低回転のトルクの増大、加速レスポンスの向上をはかるとともに、併行して開発された電子式噴射時期制御システムの使用などにより、大幅な燃費低減を実現したものであり、自動車技術の進歩・発達に果たした功績は誠に顕著である。

5. 自動車技術会賞受賞者特別講演会

5月19日(水)15:40~16:40 東条会館ホールにおいて、第32回自動車技術会賞(浅原賞学術奨励賞)を受賞した林 義正君及び河村英男君の両君による特別講演が行われた。

6. 創立35周年記念講演会

5月19日(水)16:50~17:20 東条会館ホールにおいて、自動車技術会創立35周年を記念して荒牧寅雄名誉会員による「韓国の自動車事情」と題する特別講演が行われ、多数の聴講者一

同に激励と感銘を与えられた。

7. 懇親会

5月19日(水)18:00~19:30 東条会館スタールームにおいて、恒例の懇親会を催した。

文部省松浦学術国際局長、田保橋情報図書館課長、運輸省宇野整備部長及び清水車両課長ほかの方々々が来賓として参会された。

高橋会長の挨拶に続いて、寺沢名誉会長の乾杯により幕をあげ、来賓を代表して松浦学術国際局長よりご挨拶を頂き、150名をこえる会員有志は若葉董る一夕を和やかに歓談、親睦を深め合い、白井名誉会員の万才三唱により盛況裡に懇親会を終了した。

8. 見学会

5月20日(木)あいにくの雨天について432名の参加者により6班の見学会を実施した。

1班	日産自動車(株)栃木工場	参加者 102名
2班	日産ディーゼル工業(株)上尾工場	" 98名
3班	(株)日立製作所佐和工場	" 36名
4班	日本自動車変速機(株)	" 51名
5班	日本電子機器(株)	" 49名
6班	トヨタ自動車工業(株)上郷工場・高岡工場	参加者 105名

以上のとおり、57年度の春季大会は盛況裡に全日程を終了することができた。

なお、秋季大会は関西支部の協力により、10月20日~22日の間、大阪市の科学技術センターにおいて開催される。

編 集 後 記

これまで景気の牽引車としての役割を果たしてきた輸出にも、このところ停滞乃至は鈍化の傾向が見えるようになりました。内需が盛り上がりを欠くなかでの輸出の変調であり、日本経済の先行きに対して悲観色が強まりつつあります。こうした輸出変調の要因としては、まず欧米先進国の景気の停滞が長引く一方で、この影響を受けた中進国や産油国で景気が悪化、世界経済全体が低迷状態に陥つていることが指摘されています。また、対米自動車の自主規制にみられるように、欧米諸国との貿易摩擦の高まりにも輸出抑制要因として無視しえないものがあります。

このような経済状況のもとで自動車産業が更に安定した成

長を維持してゆくにはますます地道な努力が必要とされます。

これまでの日本車に対する高性能・高品質、低燃費等の評価にこたえるためにも生産技術の向上はますます重要性を増しています。生産技術については、前回は'80年7月号で「生産技術と施設」として特集されましたが、今回の「生産技術」小特集でもできるだけ幅広くテーマを収集し、斯界の専門の方々にご執筆をいただきました。皆様のお役に立つものであれば幸いに存じます。

なお、既にご承知のごとく'82年4月号から連載講座として当面の自動車を中心とした生産技術の変遷を取り上げておりますのでこれもあわせてご利用下さい。(担当委員 豊田利夫)

自動車技術会 編集	自動車技術	昭和57年6月25日 印刷
		昭和57年7月1日 発行
Vol. 36, No. 7, 1982.		定価1,500円 (〒60円)
発行所 社団法人自動車技術会 (郵便番号) 東京都千代田区五番町10番2号 102	電話 東京 (03) 262-8211 (代) 振替 東京 0-196725番	編集発行人 景山克三 印刷所 大田印刷株式会社

<無断転載を禁ず>